

タイ・チェンマイでのHIV/AIDS 予防教育事業の集大成（高専生への展開）

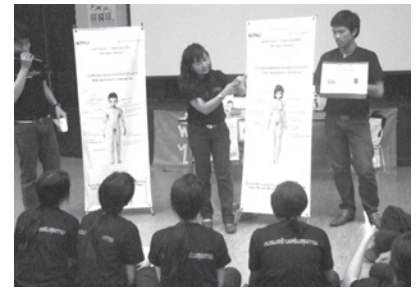
PHJは2000年からタイ、チェンマイ県の大学生を対象としたHIV/AIDSピア教育(*1)を実施してきました。これまで500名を超す大学生ピアエドゥケーター(以下PE)を育成、彼らが30,000人以上の大学生にHIV/AIDSの知識を伝えてきました。対象大学では現在も自力で活動を継続しています。

過去の事業の評価を2012年に実施したところ、PHJのHIV/AIDS予防教育活動が大学生のHIV知識向上と行動変容に効果があったことが明らかとなり、チェンマイ県保健局の強い要請もあり、2013年8月からは対象年齢を高等専門学校生(以下高専生)に下げ事業(*2)を実施しています。3年間で18校720名のPEを育成し、5,160人の高専生にピア教育を行うことを目指しています。

近年タイでは、性交渉の早期化が危惧されています。中学校を卒業し高等専門学校へ進学する学生の中には親元を離れて寮生活や1人暮らしを始めるケースが多くあります。社会経済的地位が低い家庭出身の学生も多く、ライフスタイルの急激な変化に加え、性感染症などの保健知識も低いため、リスクの高い行動をとる学生の割合が高いと言われていました。

昨年9月に高専生を対象にした初めてのPE育成研修を行い、121名が参加しました。研修では、ビデオ教材、ゲーム、グループ討論を取り入れたり、HIV陽性者から経験談を聞いたりして、HIV/AIDSを含む性感染症の知識、ライフスキルやリーダーシップスキルなどを学びました。PEは研修後、専門家や経験豊富な先輩PEからのアドバイスももらいながら、自分たちで年間のピア教育活動計画を立て、教育教材を完成させます。そしてこれらの計画を元に、学校の仲間にHIV/AIDSの知識を伝えていきます。PHJ職

員は各学校教師、PEと定期的に会議の場を設け、活動の進捗状況を確認します。10代の若者は、性に関する多くの情報を同世代から受け取ることが多い



研修一例
～思春期に起こる体の変化を絵に描いてみよう～

いため、このPEが重要な役割を果たします。

チェンマイ商業高等専門学校のキッメー学長は次のように述べています。「各高等専門学校は、生徒が安全に生活するよう指導するという教育方針を有しており、この事業はまさにその方針に沿ったものであると考えています。我々職員もこの事業を通じて、ピア教育で知識を伝えていく方法を学んでいます。PEは自分たちでピア教育活動を企画し、他学生に対し活動への参加を促します。我々は、PHJの支援のおかげで、学生たちがHIV感染を予防する行動をとってくれるだろうと確信しています。PHJは長年にわたり築き上げた活動ノウハウを持っている組織です。学校側にはこれらの経験がなかったので、PHJはそのニーズと現実とのギャップを埋めてくれています。これからもPEがより良いピア教育を提供できるように、引き続き指導していきます。」

タイ事務所所長 ジラナン・モンコンディー



NGO 連携無償資金協力の署名式



PE 育成研修

(*1) ピア教育とは、同世代間で知識・スキル・行動を共有する教育のことであり、それを行う同世代のリーダーをピアエドゥケーターといいます。

(*2) この事業は日本政府の NGO 連携無償資金協力を得て実施しています。

* PHJでは2014年7月にタイ・HIV/AIDSスタディーツアーを企画しています。詳細はホームページで御案内いたします。

インドネシア

創業 100 周年記念として地域保健センターを建設支援

PHJ は賛助会員の岩渕薬品株式会社様より、創業 100 周年記念の社会貢献活動としてティルトヤサ自治区サンバルワディ村に地域保健センター（ポスケステス）とセンター内の機器を寄贈して頂きました。2 月末にポスケステスの開所式が行われました。

新しいポスケステス建設地のサンバルワディ村は 620 世帯（住民 3000 人）中およそ 3 分の 1 が貧困世帯の村です。施設は低地の空き地に建設されることになり、村人が自ら整

地と盛り土を行い 2013 年 10 月に着工しました。工事は着々と進み、深井戸の建設も同時に行われました。川を挟む橋も建設しました。将来村役場も隣接地に建設され、この地域が村の中心となる予定です。



助産師がポスターを持ってサービス内容を説明



完成したポスケステス

建設が始まってから村人が施設をきちんと利用するよう、

母子保健教育の折にポスターなどを使って、ポスケステスで避妊・家族計画、妊婦検診、自然分娩、産後検診、一般外来、カウンセリングを行うことをプロモーションしてきました。

この保健センターには助産師が常駐し、出産のサポート他一般の診療にあたります。これまで自宅出産で十分な医療知識をもたない介添えや不測の事態に対応できなかったリスクが大幅に軽減されます。インドネシアの助産師には点滴、投薬などの医療行為が許可されており、3000 人の村人の健康管理も行うことができますようになります。



開所式会場

2 月 27 日 岩渕薬品の代表の方三名（右の写真前列左から 5 人目、岩渕社長、岩渕部長、石崎係長）、PHJ インドネシア所長、スタッフ、本部から理事長小田、木村が参列して現地で開所式が行われました。早朝に降っていた雨も止んで青空のもと、ティルトヤサ自治区長、村長はじめ 200 名以上の村民がかねてから待っていたセンター完成を祝いました。

代表 木村敏雄

学ぶことをメンバーと楽しむ8日間 [PHJカンボジアスタディツアー2014終了報告]

「カンボジア×農村×保健」というテーマで実施された PHJ カンボジアスタディツアー（2 月 23 日～3 月 2 日）に、広報兼アシスタントとして同行しました。（アテンドは海外事業部の中田）参加メンバーは 9 名。看護師や看護学生が多かったものの、大学や大学院生、企業や財団に勤めている方など、多様なジャンルの方が集まりました。

ツアーでは、参加者が二つのチームに分かれ PHJ の活動である「衛生教育」と「母子保健ボランティア育成」のどちらかを体験。そしてこのチームで農村の人や医療施設のスタッフへインタビューをして農村の状況を把握し、最終的には調査・体験した内容をもとに、問題点を洗い出し改善策を PHJ 支援地の病院長や保健センタースタッフなどに提案する、というのが主な目的です。

「衛生教育」のチームは PHJ の活動体験で手洗いの実演をする予定でしたが、村人の間では手洗いがすでに浸透していること、さらにこの地域で気管支系の病気が増えていることを事前の調査で知り、参加者の発案で急きょ「うがい」の実演をすることに。模造紙にうがいの必要性やその方法を描いた絵を見せ、実際にうがいをしてみせながら村人に説明しました。



衛生教育でうがいの説明と実演



産後のケアをロールプレイで提案

このチームは活動を体験する段階で新たな提案を考え、実行したところが見事でした。

「母子保健ボランティア育成」のチームも、最後の提案ではロールプレイで産後のお母さんのサ

ポートを手厚くする具体的な方法を伝え、注目を浴びました。2つのチームのシンプルで現実的な提案に、病院長からもぜひ実行したいと言っていました。

短期間で質の高い提案ができた大きな理由は、参加者同士が協力しながら、それぞれの能力を発揮できたから。このツアーの魅力は、参加者たち自身がツアーを盛り上げ、作り上げていくところにある、と感じました。

東京事務所 南部道子

◆今回のツアー参加者からの声◆

生活から呼吸器疾患や下痢を減らす方法を、初対面の仲間と共に考える。それは大変な事でしたが、温かい想いと情熱に包まれた 8 日間でした。人を思いやり、愛をもって接する事の大切さを教えてくれたこのツアーに感謝します。（金子愛：企業勤務）

参加者が学生から社会人の方まで分野・業種も多様で、視点や捉え方がそれぞれ異なり、とても勉強になりました。毎晩疲れている中でも、自分の意見も相手の意見も認めて真剣に議論ができたことは、忘れられない思い出になります。（熊谷真帆：看護大学学生）

東日本大震災復興支援 発生から3年、支援活動継続中

PHJは2011年3月11日に発生した東日本大震災支援を宮城県・気仙沼市を中心に市医師会と連携して第一次～第三次まで活動してきました。この度、気仙沼市医師会森田会長からメッセージをいただきました。



「東日本大震災に伴い当医師会の被災医療機関等の復旧・復興に対し、PHJ様はじめ多くのご支援者の皆様には、暖かいご理解とご配慮をもって医療機器や什器備品・事務機器や車両等多大なご支援を賜り、心から深く感謝申し上げます。また遠路にもかかわらず多くの皆様に被災地までお越し

の上、お見舞と励ましのお言葉をいただき意を強くした次第です。皆様には今日まで継続的にご支援をいただき、そのお陰により仮設診療所を含め約8割の医療機関等が再開し、地域医療の維持に努めております。震災より3年となりましたが被災地(者)の本当の復興はこれからであり、併せて地域医療の復興も道半ばであります。これからも地域住民に安心のある暮らしの提供に向け地域医療の復興と推進に邁進したく、変わらぬご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます」

社団法人気仙沼市医師会 会長 森田 潔

気仙沼への第3次支援は主に医療機器の寄贈が中心で、志田整形外科へ手術台と自在テーブル他を、また三条小児

科医院へは輸液ポンプ、身長計他を寄贈しました。

東京事務所 横尾 勝



志田整形外科医院への寄贈品



三条小児科医院への寄贈品

2011年3月15日から2013年12月31日までの東日本大震災寄付金の収支

	単位(万円)
【収入】 現金寄付	11,960
商品寄付(医療機器・事務機等)	20,677
【支出】 医師派遣費・医療機器調達費	8,741
商品支援(医療機器・事務機等)	20,677
輸送費・スタッフ活動費	2,325
【残額】 復興支援に使う予定	894

皆様のご支援に感謝いたします。

フィリピン台風30号被災者人道支援へのご協力に感謝いたします

PHJは昨年11月8日にフィリピン中部を襲った台風の被災者を支援する募金を11月19日に開始しました。2014年3月20日までに7法人、3社の従業員、75名の個人から総額1,773,500円の募金を頂きました。集まった募金は、現地で支援活動を行っているシンガポールの人道支援・災害支援団体「マーシーリリーフ」を通して、被災者の救済のために使っています。12月にはソーラー発電充電器10台を送り、1月末に100万円を送金しました。

「マーシーリリーフ」海外事業部マネージャーの石関正浩さんから次の感謝のメッセージを頂きました。

このたびは、私どものフィリピン台風30号の被災者への緊急人道支援に、募金とソーラー発電充電器のご寄贈を頂き、誠に有難うございました。お預かりしました募金は現地で厳しい状況に置かれた被災者の皆さんに食糧等の緊急支援物資として配布し、充電器は電気がまだ十分行き渡らない現場で活動している地元NGOや住民団体に寄付させて頂きました。ご協力いただきましたPHJのご支援者の皆さま、事務局の皆さまに、厚く御礼申し上げます。



2013年12月
レイテ州ドゥラグ
台風の強風により中折れした携帯電話中継塔

ご存知の通り、台風30号は2013年11月8日フィリピン中部(ビサヤ地方)を直撃し、各地に多大な風水害の爪痕を残しました。死者行方不明者7,986名、被災者1,607万人余に上っております(2014年1月29日フィリピン政府発表)。

マーシーリリーフは、11月5日より当時南太平洋上に位置していた台風30号のモニタリングを開始し、8日上陸当日は、10月15日発生したフィリピン中部ボホール地震救援に入っていた救援チームが、そのまま救援に向かいました。11月から12月まで、7つの



2013年11月
パラワン州沖合いの島に緊急物資を届ける

救援チームが現地に入り、総計8万人程の被災者の皆さんに緊急支援物資をお届けすることができました。

緊急支援物資は、米や麺、乾し魚、緑豆といった食糧を中心に、石鹸等の身体の衛生を保つ上で必要な物品も被災世帯に配布しました。安全な水の確保が難しい地域には、電気なしでも使える簡易浄水器を集落に設置し、水田や川の水を濾過し飲料水を確保できるようにしました。また、地域のニーズの変化に応じて、テントに使える防水布やトタン、釘といった仮住いを準備する上で必要な物品の配布も行いました。

(Page 4に続く)

会員のひろば

「私とPHJ」

岩淵 重人 (パートナー会員、賛助会員)

私が PHJ へ関わるきっかけは、24 年前に就職した会社が PHJ の設立時に個人賛助会員を募集していたことでした。はじめのころは PHJ の会費を払うだけで、自分は実質的には何もしていませんでした。仕事上、これまで多くの国を訪れる機会に恵まれ、多様な文化や良くも悪くも様々な経済・社会状況が存在することをアタマでは理解してきたつもりでしたが、保健医療の状況や援助が必要な現実についてはほとんど認識することはありませんでした。

自分も 2000 年に家族が一人増え、転職を機会に PHJ の本部のある武蔵野市に転居しました。タイの障がい児支援のパートナー会員としても登録をし、現在に至っています。HOPE NEWS で理事や運営委員・スタッフの皆様にお世話になった方々のお名前を見つけると、PHJ には親近感を持たずにはいられないのも事実です。

私には社会貢献やボランティア活動へ二つの入口(機会)がありました。

一つは会社員として、企業活動を通じた機会です。今は外資系保険会社の社員として、企業の社会的責任の視点を常に持ちたいと感じています。勤務先では社会貢献の一環として、都内や近隣地域の小学校でのボランティ



アや教育支援活動を行っています。今後も積極的に参加していきたいと思っています。

もう一つは、家族や身近なコミュニティを通じた機会です。地域の活動やボランティアには、できる限り家族と一緒に参加しています。ちなみに、先日は息子が通う近所の中学校の社会科の授業で、PHJ のメンバーの方がカンボジアでの生活と医療状況についてお話しされたとのこと。息子がその様子や内容を家で話してくれました。

パートナーとして、定期的に送られてくる写真や状況報告が届くたびにドキドキしたりホッとしたりします。東日本大震災や最近のフィリピンの台風被害の際の PHJ の対応はその内容やタイミングについてとても合理的で会員個人や企業の信頼に応えるものだったと思います。

家族や地域、そして仕事に恵まれていることに感謝しつつ、少しずつですが今後も PHJ を応援したいと思います。

「アジアのおはなしカレンダー 2014」募金の報告

2013 年 9 月末に募金を開始し、皆様の暖かいご支援とご協力により 2014 年 1 月末までに、年末募金と合わせて 380 万円が集まりました。頂いた募金はカンボジア、タイ、インドネシアでの母子保健、感染症予防教育、東日本大震災復興支援などに使わせていただきます。

カンボジア、タイ、インドネシア、日本の子供達がそれぞれの国のおとぎ話を絵にした「アジアのおはなしカレンダー」は 4 年目となり、この機会に皆様のご意見を頂きたいと「カレンダーのアンケート」をホープニュース 67 号に同封しました。50 名近い方が回答を寄せてくださいました。



トラを生き返らせた仙人のおはなしを絵にするカンボジアの子供

1. カレンダーのサイズ:
現状のサイズでよい 85%、A4 サイズ 6%、卓上サイズ 9%
2. 数字部分のスペース:
ちょうど良い 83%、小さすぎる 11%、その他 6%
3. カレンダーの企画について:
おとぎばなしと子どもの絵の企画でよい 85%
子供の写真、アジアの風景の写真でも良い 15%
4. 全体の印象
ユニークなカレンダーを続けてほしい
家族の予定表として使うのに便利
各国のお話を知ることができて良い

これらのご意見を参考にして「アジアのおはなしカレンダー 2015」の企画を始めています。

8 月にはホームページなどでご覧いただけます。

フィリピン台風30号被災者人道支援へのご協力に感謝いたします(続き)

(Page 3 からの続き)

レイテ島の NGO (Leyte Center for Development) のミネットさんからの感謝の言葉: 2 台のバッテリーを受け取りました。ありがとうございます。右の写真はやっと晴れたので太陽電池を充電しているところです。



パナイ島の NGO (Panay Center for Disaster Response) のアーミーさんからは「3 か月以上たちましたが島の北部のカピスではまだ電気が復旧していません。PHJ に GS-Yuasa の AKARI Solar Light を寄贈して頂き感謝しています。被災者も右の写真のようにと喜んでいて」と感謝状が届きました。*この募金は 2014 年 4 月 30 日に終了いたします。



お知らせ

*ホープジャパンニュースを郵送でなく、PDF でお受け取りになりたい方は info@ph-japan.org までお申し込みください。次号よりメールに添付してお送りいたします。